

事業番号	060
------	-----

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	農業体験事業						担当部	市民産業部							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	農政課							
	事業期間	平成19年度			～	平成30年度以降		担当係	農地係							
	総合計画 分野別計画	主目的	6 産業振興		28 農業		3 農業にふれあう場の整備を進める									
		副目的														
	予算区分	款	6		項	1		目	3		大	2		中	3	
	根拠法令・個別計画															
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	農作業経験ない多くの市民に、農作業に触れる場所や機会を提供し、栽培方法や施肥、病害虫防除に関する基本的な知識を講義を通じて習得し、また、習得した知識を農場で実践し、土づくりから作物収穫までを体験することにより、農業への興味や関心を持ってもらう。														
内容 (手段)	<p>◆平成24年度 業務委託により講座を開催した。委託の内容は、会場手配も含めた講座開催以外に、実習農場の管理や、講座修了者への指導援助等も含まれている。</p> <p>(1) 野菜づくり講座 1年を春夏コース、秋冬コースの2回の講座とし、1回の定員20名で開催 ・実施場所: JA尾張中央東部営農センター会議室及び実習農場(上末東山地内) ・講座修了後も希望者には、耕作に利用できる場所を斡旋する等の指導援助も行う。</p> <p>(2) 野菜かんたん栽培講座 実習は不要だが話を聞きたい人を対象に、2時間程度、定員80名程度で開催 ・実施場所: 小牧市役所東庁舎大会議室 実習農場で作物の盗難があり、今後の防止のため農場入口にチェーンによる車止め工事を行った。</p> <p>◆24年度直接経費の内訳 11節 消耗品費等(12千円) 13節 委託料(2,104千円) 15節 工事請負費(79千円)</p> <p>◆25年度直接経費の内訳 11節 消耗品費等(143千円) 13節 委託料(2,310千円)</p>															
受益者負担	有 やさいづくり講座受講料5,000円/人															

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	2,190	2,227	2,196	2,453	
		正職員	従事者数	人	0.10	0.10	0.10	0.10
			人件費	千円	533	533	533	533
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	2,723	2,760	2,729	2,986		
対前年比	%		101.3	98.8	109.4			
財源	一般財源	千円	2,523	2,580	2,564	2,786		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	200	180	165	200		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	績	体験講座受講者	人	目標	40	40	40
実績				40	36	33	
			目標				
			実績				
成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25	
業	「農業に対する興味が深まった」とのアンケート回答(回答者割)	%	目標	90	90	90	90
			実績	100	100	92	
			目標				
			実績				

事業の自己評価	事業の達成状況	<p>実習区画は合計40区画あり、春夏・秋冬各20名定員である。通路等共用部分のほかキャンセルによる空き区画も含め委託先(JA)が全体を管理し、受講生のフォローも行っている。草刈や耕起等の重労働の実習を伴う講座だが、閉講時の受講者アンケートでも農業に対する興味が深まったと回答が多い。また、実習を伴わない講座も年に2回無料で開催、それぞれ80名程度の参加があった。</p>	
	事業実施における課題	<p>平成20年の事業開始から5年が経過し、実習農地では連作障害の懸念がある。消毒(薬品)で対応をしているが、減農薬の観点からも、秋冬・春夏の各コースの使用位置の入れ替え等の根本的な対策が必要な時期にさしかかっている。</p>	
	事業を縮小・廃止したときの影響	<p>農作業は病害虫や重労働という辛い面もあり、とくに初心者では、こうしたことで農作業に対する興味が薄れることもある。耕運機の使い方や効果的な土づくりの方法、病害虫対策を学び、実際の作業を行う中での疑問が、講師や同じ受講者同士で相談できるような場は少ない。 単純に貸し農園とした場合、受講者間の農業意欲差による新たなトラブルも想定される。</p>	
	平成25年度の改善内容	<p>25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)</p>	<p>春夏・秋冬各コースとも募集人員を例年の半分程度にし、実習農園の半分を半年～1年間作付けせず休耕し、各コースの利用部分を入れ替えることで連作障害の対応を図る。ただしこの処置により受講者数及び受講料収入も例年の半分程度となる。</p>
平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	<p>事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)</p>
	判定理由	<p>受講者アンケートで農業に対する興味が深まったとする回答が多く目標を達成している。</p>	
	26年度以降の改善案	<p>本格的に生産者を目指す人向けコース(例:講座の期間を1年以上に延長、受講者による農業祭等品評会や即売会への作物出品等)の検討。</p>	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。